

2022年度 島根県グローバル人材育成支援事業(第7期)活動レポート(概要版)

島根県立大学 総合政策学部 4年
遠藤圭記

テーマ	島根県産製品の ASEAN 諸国への販路拡大に向けた支援スキームの創出 ～タイでの支援事例からの考察
留学先	タイ
現地活動期間	2022年11月1日～11月30日
受入機関	島根・ビジネスサポート・オフィス(バンコク)

概要



本留学の目的は、島根県を代表する特産品「日本酒」・「水産加工品」のタイへの輸出を促進させる効果的な施策を明らかにする点にある。その中で、バンコクに設置される海外ビジネス支援拠点「島根・ビジネスサポート・オフィス」で1カ月間インターンシップを行い、上記2品目における現地小売店での市場調査や、島根県内企業を含めた複数社へのヒアリング調査などを筆者自ら実施した。

(右が著者)

活動内容(週単位)

- 1 週目 活動計画書作成、基本情報の共有、政府系機関訪問、日本酒の勉強会&試飲会参加
- 2 週目 計画書フィードバック、政府系機関訪問、ヒアリング先選定、島根県庁様ヒアリング
- 3 週目 市場調査(日系スーパー、大型施設など)、日系飲食店ヒアリング、外部倉庫(酒)見学
- 4 週目 県内企業含む3社ヒアリング、日本酒関連の営業同行、和菓子関連のアテンド業務同行
- 5 週目 「オフィスだより」あらすじ作成&フィードバック、本活動の振り返り&今後の予定確認



活動のまとめ

・学んだことや所感など

学んだことは、島根県産加工食品のタイへの輸出促進を果たす上で輸出企業による「現地での積極的な活動」が強く求められることにある。留学前は輸出促進を阻む主な障壁は、輸出支援を行う様々なアクターが「チームしまね」として役割の分類化を果たしきれていないことや、取引開始までの支援スキームが未整備であることに起因すると考えていた。だが、海外進出を果たす複数企業へのヒアリング調査などから、輸出を含めた海外進出の促進に向けて最も必要なことは主役である輸出企業の「本気度」の向上であり、進出を検討する地域に意欲的に足を運び自身の五感で市場の現状と可能性を確認することが成功のカギになると分かった。そして現地で受け入れられるよう、現地訪問から得た肌感覚や知識を活かして徹底的なローカライズを図ることがひとつ有効である。

・今後、島根県のために活かせると思うこと

来年4月に控える県内企業での就職において、本留学で得た未知の領域に対して果敢に挑戦するという姿勢を持ち続け活躍することを目指す。今回、異国の地で1カ月間生活できたことを自信に、就職後はお客様の課題解決に向けて国外を含めた未知の領域に果敢に足を踏み入れ、グローバルな観点からお客様をサポートできる希少価値の高い人材となれるよう精進していきたい。